

なかざわ きよたか
中澤 清孝

年初に思うこと

●電機連合・書記長

謹んで新春のお喜びを申し上げます。
2022年が皆様にとって輝かしい年になる
ことをご祈念致します。

～2021年を振り返って～

昨年7月、2020東京オリンピックが緊急事態宣言下、かつ無観客という過去に例のない形で開催されました。極めて難しい状況が多かった中での開催となった東京オリンピックについては、今後、様々な立場から、その是非や評価が行われることでしょう。しかし、今の時点で確かに言えることは、選手の皆さんの競技に向き合う直向きな姿勢、懸命な奮闘、最後まで諦めない姿、そして日々届いたメダルラッシュのニュースは、私たち国民に大きな感動とエネルギーを与えてくれたということです。

2021年は新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でもありました。ワクチンを打ちたくても打てない、病床はひっ迫し、感染しても入院できずに自宅療養中に亡くなるという痛ましい報道もありました。私たちは、この間、政府から繰り出される緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等を何度経験してきたことでしょうか。新型コロナウイルス感染症は、第6波の懸念も残ります。政府には国民の生活と命を守る取り組み、そしてコロナ禍で傷んだ経済の

立て直しに向けた議論と施策の展開を期待したいと思います。

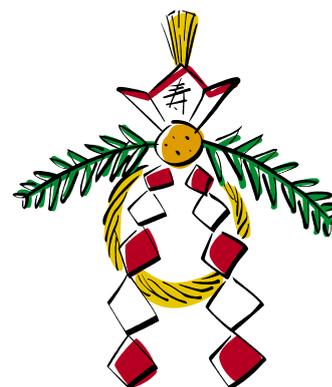
～2022年総合労働条件改善闘争に向けて～

2022年闘争は9年連続となる賃金水準の改善と労働協約改定に取り組みます。電機連合は組合員の安心、モチベーション維持・向上、さらには日本で働くすべての労働者への社会的な波及や、消費を回復させ経済の自律的成長につなげる観点などを総合的に勘案し、賃金体系維持を図ったうえで継続した賃金水準の改善に取り組むこととします。

労働協約改定については、ウィズ・アフターコロナ社会における働き方改革として、総実労働時間の短縮、すべての労働者の立場にたった働き方改革、柔軟な働き方に対応した環境整備に取り組みます。また、誰もが活躍できる環境を実現するため、高年齢者の活躍、仕事と育児の両立支援に取り組みます。特に、仕事と育児の両立支援の取り組みについては、本年4月より育児・介護休業法の改正が順次施行されます。出産・育児等による労働者の離職を防ぎ、希望に応じて男女ともに仕事と育児等を両立できるようにするという法の趣旨を踏まえた対応を行っていきます。

これに関連する印象に残る話があります。

私が所属する会社では産休に入る前に本人



と上司と一緒に受講する「産休前・復職支援セミナー」があります。単組の役員だった2014年、部下の女性と一緒にこのセミナーを受講しました。特に印象に残っているのが「子育て中の女性社員に負荷の大きな仕事は任せられない」といったアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）があるという話です。このような無意識の思い込みや過剰な配慮が、女性活躍の妨げになるとの話に「ハッ」とさせられ、真に多様性を生かすマネジメントのあり方とは何か、改めて考えさせられた瞬間でもありました。この経験を通して感じたのが、法整備が整っただけでは上手くいかないということです。従業員の意識、職場風土、運用が伴ってはじめて、誰もがいきいきと働ける職場環境になっていくと感じます。今回の法改正への対応として、各労使で真摯な議論が繰り広げられ、魂の入った労働協約改定につながることを期待したいと思います。

～労働運動、組合活動の変化への挑戦～

新型コロナウイルス感染症拡大は、否応なしに私たちに新たな働き方や生活様式の変革を迫りました。同時に、労働運動や組合活動のあり方も大きく変えていくことのできる好機とも言えます。電機連合は昨年7月の定期大会で新

たな中期運動方針を確立しました。その中で、「ウィズ・アフターコロナ社会をふまえた労働運動・活動のあり方」についてもまとめています。ニューノーマル（新常態）における労働運動で留意する点として、①労働組合運動の基本を堅持する、②新たな活動に挑戦する（コロナ禍のような制約が生じる場合には、さまざまなコミュニケーションツールや活動方法が活用できるように、各種ルールを見直し、いつでも対応できるよう積極的に準備しておく）、③新しい環境に適応した教育体系を構築する、の3点を挙げています。特に②については、「バーチャル組合事務所」として、HPやSNSから仮想空間にバーチャル組合事務所を開設し、これまで対面で行っていた組合員の相談対応、各種申請書類の手続き等を行うといったことにも挑戦していくとしています。コロナ禍の組合活動はWEB形式による会議の増加などで、効率的・効果的な運営も見られようになりました。良い面悪い面の双方があるものの、「参加しやすくなった」という前向きな声も聞かれます。これまでの組合活動のあり方を見直し、新しい労働運動のあり方を模索していきたいと思えます。